



## 『剣道で学び続ける』

岐阜県

大勇道場

中学3年生

大澤 瑠紗

私は今、剣道が大好きです。剣道に出合い仲間と一つになって頑張る楽しさ、苦しみ、楽しみ、喜びをわかち合う大切さ、あきらめずに継続する事の大切さを学びました。剣道は私にとって最高の先生や仲間、多くの教えに出合わせてくれたかけがえのない存在です。そんな剣道もいつも熱心に指導して下さる先生方、どんなに厳しい稽古も一緒に乗りこえ励ましてくれる仲間、そしていつも私を一番近くで支えてくれる家族がいるから続けられています。剣道があったから、私は家族や仲間、周りの存在の大切さに気付き、感謝の心、思いやりの心を身につけることができ、今の私があるのだと思います。

6才の時に出会った剣道。その時はただ「剣道が強くなりたい。強くなって試合に勝ちたい。」と思って稽古していました。しかし剣道を続けていくうちに、私の中である疑問が浮かんできました。

「勝つことだけが強いことなのだろうか。本当に目指すべき剣道とはどんな剣道なのだろうか。」

私は小学校の時、剣道ができなかった時期がありました。できなかったといっても、私が弱い自分から逃げただけでした。先生の厳しい稽古がつらく、「剣道をやりたくない。もうやめよう。」と思いで道場へ行っても中に入ることができず稽古ができませんでした。先生方や仲間に助けてもらい、もう一度頑張ろうと思うことができましたが今思うと、その時の厳しい稽古は逃げようとしていた私に「心も強くなれるように」という先生の優しさのつまった稽古だったのだと思います。相手と向き合う前に自分と向き合い、心の弱い自分に勝たなければいけないこと。決して一人ではなく、先生方や仲間、両親に支えられていることを厳しい稽古を通じて学ばせていただきました。

今、世の中では私と同じ世代で悲しい事件が多く起こっています。そのようなことで、悲しむ人々を出さないようにするためには、相手のことを考え、周りに流されず正しい判断ができる強い意志をもった心であることが必要です。私たちも将来大人になります。大人になった私たちが、その心を持ち続け、伝えていかなければいけないと思います。そしてその心は「日本人力」日本の心を学ぶことで身につけることができるのだと思います。

日本人は昔から、相手を思いやる心を持っています。そして色々な人に支えられていることに感謝をし、人の苦しみや痛みが理解でき、人に優しさを与えられることができます。私は剣道を通じて、この日本人、人としての心構えを学びました。剣道は、人を大切に思いやりの心をもつこと、感謝することなど人として持つべき大切な心を、受け継がれてきた心を私たちに教えてくれているのではないのでしょうか。

本当の強さとは「勝てばいい。強ければいい。」ではなく、周りの人に優しく、自分に強くなること。「弱い自分に打ち勝つ、強い心を持つこと」なのです。そして剣道はただ勝ち負けを競い合うものではありません。どちらかが勝ち、どちらかが負ける勝負ですが、その中でお互いを尊重し合い、たくさんの人に支えられ今、剣を交えられることに感謝する。厳しい稽古の中で立派な人間になるために、人として大切なことを学び続けていく。これが目指すべき本当の剣の道だと思います。

相手の立場や考えを理解しようとする思いやりの心や、許し合い、認め合い、譲り合い、助け合い、わかち合う和合の精神こそが、本来の「日本人力」であると思います。

私は来年、高校という新たなステージへ進みます。これからも剣道の理念にある「人間形成の道」を歩み続け、剣道を通じて、「強い心」を養い、「日本の心」「日本人力」を身につけるために剣道で学び続けていきます。